

序

万葉集の巻頭をかざる持統女帝の一首にも詠われた、天の香具山。その西方に、高所寺池があります。

その名のとおり、下流の集落、高殿・別所・法花寺にその水を注ぎ、それらの田畑を潤してきたこの溜め池は、橿原市内でも有数の広さをもつ池として、知られています。

今般、老朽化してきたこの池が、農林水産省近畿農政局による、国営大和平野総合農地防災事業の対象地にとりあげられ、その堤を中心に改修されることとなりました。

高所寺池は、その北半が特別史跡にも指定されている藤原宮跡と重なり、南半は藤原京域跡と重なっています。また、近傍の発掘調査によれば、それを前後する長い時間にわたって、人々の暮らしの跡が埋もれていることもわかっています。

近畿農政局では、このような状況を十分に理解され、工事に先立つ発掘調査に十全の協力を惜しまれませんでした。これを受け、奈良国立文化財研究所（のち、独立行政法人奈良文化財研究所）飛鳥藤原宮跡発掘調査部では、2000年度から2003年度までの4カ年にわたって、施工範囲の発掘調査をおこないました。さらに、最終年度には、池底の一部についての学術調査もおこないました。

その成果は、期待以上のものがありました。藤原宮の東南隅部は調査が少なく、いわば、宮内の空白地区でもありました。今回、南面大垣と南面外濠・内濠を確認できたことは、藤原宮の四囲に関して重要な発見となりました。また、官衙域の一部が判明したことも、貴重でした。

藤原宮をとりかこむ藤原京域部分の調査でも、条坊関連遺構をはじめとして、多くの遺構遺物をみいだしました。京内の宅地と寺院地とのあり方にも、一石を投じる知見もあります。

これ以外にも、県内でもまれな中国製内行花紋鏡の発見や、韓式系土器の出土は、香具山西麓の開発状況を語る上に欠くことのできない資料であり、また、13世紀を前後する鎌倉時代の遺構遺物は、文献史料とあわせ、周辺の中世的景観復元に欠かせないものとなるでしょう。

改修なった高所寺池の傍らに立つと、これら長きにわたる人々の営みが、常に、香具山のゆったりとした山塊に見守られてきたことを感ぜずにはられません。

最後に、遺跡調査とその保存に関して尽力を惜しまれなかった農水省をはじめとする関係各位に篤く感謝するとともに、この報告書が広く各方面で利用されることを願ってやみません。

2006年3月

奈良文化財研究所
所長 田辺征夫